

主任教授からのメッセージ

下部消化管外科学講座では、女性外科医がそれぞれのライフステージに応じて外科医としてのキャリアを継続し、発展させていけることを何よりも大切にしています。出産や育児などによる一時的なブランクは、キャリアの中断ではなく「次の成長につながる時間」であると私たちは考えています。

ロボット支援手術を含む専門的な手術手技の習得についても、復帰の時期や勤務形態にかかわらず、本人の意欲と目標に寄り添いながら、無理のない形で段階的に支援します。また、業務はチームで支えることを基本とし、個人に過度な負担が集中しない環境づくりを行っています。そのうえで、「どのような外科医を目指したいか」を一緒に考え、臨床・研究・教育のバランスを含めた中長期的なキャリア設計を全力でサポートします。下部消化管外科学講座は、女性外科医が自分らしい形で専門性を磨き、長く外科医として活躍できる場であり続けたいと考えています。

○ 診療科の特徴

下部消化管外科学講座ではロボット支援手術の豊富な症例数と充実した指導体制を有しており、女性医師を含むすべての医師がロボット手術の修練を積むことができる環境を整えています。段階的な教育プログラムにより、助手としての参加から操作訓練、執刀へと確実にステップアップできる体制があり、育児や勤務形態にかかわらず、それぞれのペースに合わせた技術習得が可能です。

また当講座では、チーム診療を中心とした働き方を重視しており、外来・病棟・手術・カンファレンスなどの業務を複数医師で分担することで、個人の過度な負担を避ける仕組みを整備しています。このチーム制により、勤務時間の調整や短時間勤務、オンコールの負担軽減、土日祝日の休暇確保が可能となっており、出産・育児や家庭の事情、大学院進学など、個々のライフステージに応じた柔軟な働き方を実現しています。

○ 診療科で働く女性医師

現在当講座では女性医師が2名在籍しており、週1回程度のロボット手術の執刀を含む様々な手術に参加しており研鑽を積んでいます。また病棟や外来などの通常業務だけでなく、学会活動も行いながら活躍しています。

▶ 職場復帰への取り組みについて

○ 復帰までの道のり

どのような勤務形態で復帰するかは、本人の体調、希望などに合わせて相談して決定します。産休・育休明けには、大学の規程に従い勤務を開始します。

○ 女性医師キャリア形成支援担当医師からのメッセージ

下部消化管外科では、女性医師を含めた全ての医師が、ライフステージに応じて無理なくキャリアを継続できる環境づくりに取り組んでいます。チーム診療体制を整え、勤務時間や当直・オンコールの調整など、柔軟な働き方を選ぶことができます。当講座には、出産・育児を経ながら手術や研究を続けている先輩医師が多数在籍しており、悩みや不安を共有し支え合える環境があります。技術の習得やロボット手術の研鑽も、充実した指導体制のもとで本人のペースに合わせて行うことができます。今後も性別や勤務形態にかかわらず、すべての医師が専門性を発揮し活躍できる環境を継続していきたいと考えています。ご質問や疑問などありましたらなんでもご相談下さい。

